

友の会通信

2005
Vol.
12

～ 群馬県立自然史博物館友の会 ～



船の科学館・日本科学未来館 研修視察に参加して

11月21日の研修は総勢44名、有意義に過ごせました。私は、船の科学館で南極観測船「宗谷」の船内環境の厳しさを、また、日本科学未来館では若い解説員の深海のカニの授業で、簡潔でわかりやすい説明と教材の活用にプロ意識の高さを実感しました。自然環境を生かした沖縄や日本の民家のありようにも興味を覚え、再度訪ねたいと思いました。



日 本科学未来館は二足歩行のロボット（アシモ）の出迎えて、最先端科学技術・情報が盛り沢山でした。解説員やボランティアの方が大勢居られて、快く説明して下さるので、心に残るものとなりました。船の科学館の多彩な展示、物知りシート36枚は良かった。快晴で展望塔からの大パノラマは素晴らしかったです。
古屋 京子(会員番号16-549)

船 の科学館では、群馬にいるとなじみの少ないものがたくさんあり、とても勉強になりました。「宗谷」は実際に南極に行ったと思うと、感慨深いものがありました。日本科学未来館は、家族全員が楽しみにしていた所で「アシモ」を見学でき、とても印象的でした。
田口 玉美(会員番号16-079)

口 ボットのアシモにあえて良かったです。船の科学館というところでは、船の模型がありました。本当の船が外においてあって、動かないけど船の中を見学しました。楽しかったです。
田口 玄武(会員番号16-080)

口 ボットワールドでは、階段も上がるロボット。ヒトの動きに最も近い動きには、感動的でした。120cmの身長のアシモ君には、思わず拍手でした。人の脳の精巧なつくりや発達メカニズムを見たり話を聞いたりできて、とても不思議に思いました。
堀越 友子(会員番号16-532)

船 の科学館は子どもの頃にいった科学博以来で、とても懐かしく思いました。特に当時「月の石」がとても話題になっていましたが、今は誰も見てくれないケースにひっそり展示してあったのが、ちょっと残念でした。
堀口 晴司(会員番号16-219)

未 就学の子連れということもあり心配しましたが、十分楽しむことができました。特に、船操縦のシミュレーションや胃カメラの仕組みに興味をもったようです。
堀口 光子(会員番号16-220)

口 ボット・アシモを画面ではなく、じかに見られて感激。更に解説ボランティアの多さに驚いた。解説ボランティアといろいろ話ができて、今までにない収穫があった。解説の難しい部分もあるけど、できる喜びや役に立っているという実感を共有できた。
富岡 清(会員番号16-531)

プレゼントクイズのお知らせ

研修視察でおじゃました日本科学未来館様より、友の会へと特製ボールペン5本と無料招待券10枚をいただきました。これらを会員のみなさまにプレゼントいたしますので、はがきにクイズの答、会員番号、住所氏名を書いて、友の会事務局までご応募ください。締切は2005年3月31日（必着）とします。なお、会員外の方のご応募は無効です。応募者多数の場合は抽選となり、当選は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

クイズ 2月8日現在、平成16年度友の会会員は何人でしょうか？（賛助会員も1名と数えます）
●ヒント：友の会通信11号と12号の4ページ目には……。

船

の科学館では昔から人類が使っていた船から現代の船まで、わかりやすく展示されていて、興味深く見学できました。海から離れている富岡市に住んでいる私には、海や船の勉強ができる良い機会となりました。

下 幸夫(会員番号16-106)

船

の科学館、日本科学未来館ともに興味深く見学しました。小さな子どもを連れて行ったので、皆様にご迷惑をおかけしたかと思ひます。また機会がありましたら、参加させていただきたいと思ひます。

松井 厚(会員番号16-232)

毎

回参加させていただいておりますが、いつも楽しみにしております。今回の企画は大変よかったですと思ひます。

飯塚 幸枝(会員番号16-534)

船

の科学館で船の歴史を見ました。子どもは宗谷や羊蹄丸の中をゆっくり見学でき、良かったと思ひます。

田村登志子(会員番号16-514)

船

の科学館がとても良かったです。ラジコン船コーナーがおもしろかった。また行きたいです。

田村 仁(会員番号16-516)

■第22回企画展「海の王者 サメ」展示解説会

講師：学芸グループ 主任(学芸員)
木村 敏之(企画展主担当)

期日：7月24日(土) 10:30~11:50

友の会会員は4名でしたが、一般の来館者を含め18名が参加しました。古生代と現在のサメの歯の違いやサメの進化、特色ある生態などを丁寧に解説して頂きました。予定時間を越えた展示解説会でしたが、時間を忘れるほど参加者は熱心に聞いていました。



「展示解説会(サメ展)」

今回の企画展で「ダルマサメ」というサメを初めて知りました。自分より大きな獲物に咬みついて肉をちょっとだけいただくというやり方は、節度をわきまえたサメといえるのかも。そして、スイカを丸くくり抜いたようなその咬み傷は、正に芸術的。解説会に参加していなければ、見落としていたかもしれない小さくて地味なサメでした。 北川眞理子(会員番号16-517)

海で絶対に出会いたくない生き物はサメですが、水族館で一番みたい生き物は何といってもサメです。「こわいもの見たさ」の気持ちかもしれませんが、展示解説会に参加して、人間なんかよりはるかに歴史があり、地球に生き続けてきた大先輩であることを知りました。

北川 恭史(会員番号16-518)

■第23回企画展「オランウータンの森 -東南アジアの熱帯雨林を探る-」展示解説会

講師：学芸グループ 指導主事
綿貫 攻(企画展主担当)

期日：10月9日(土) 10:30~11:50

参加者は会員5名でした。初めに学習室でスライドを使って、綿貫指導主事から熱帯雨林や企画展の展示資料の説明がありました。その後、企画展を見学しました。このスタイルは初めての試みですが、参加者に大変好評でした。



「展示解説会(熱帯雨林展)」

企画展解説会に初めて出席しました。説明を聞いたあとでのにわか知識でも、知っていて展示を見るのとは何となく見て歩くだけとは、まるで違った感じでした。お陰様で大変興味深く見る事ができました。

深澤 祥之(会員番号16-103)

解説をして頂き疑問に答えて頂けることは、知識の少ない私にはとても有り難いことです。次の機会も予定が合う限り、参加したいと思ひます。

深澤久美子(会員番号16-104)

学習室での説明は詳しくて分かりやすかったです。企画展では実物を見ながら、熱帯雨林について色々分かりました。色々説明してくださって、ありがとうございました。

深澤 菜見(会員番号16-105)

■地層・化石観察会

「900万年前の板鼻層を観察しよう」

今年度、第2回目となる野外観察会は、「地層と化石」をテーマに、安中市上後閑の後閑川右岸で開催されました。講師は、博物館の野村正弘専門員と「友の会」運営委員の角田寛子・森平利政の両氏にお願いしました。当日は天候にも恵まれ、会員19名、事務局・講師6名の25名で楽しく実施することができました。

地層を直接観察する中で、様々な形の巣穴（生痕化石）が発見され、地層のでき方や堆積環境などを学習することができました。また、化石については大きなカキの殻のぎっしり詰まった化石床やホタテガイの仲間の化石などの観察もでき、内容の多い観察会となりました。



参加者の声 sankasha no koe

貝

の化石がたくさん見えるのに、岩が硬くてとれないのはちょっと悔しかったけど、木の葉の化石がとれてうれしかったです。

友成 悠介 (会員番号16-102)

貴

重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。親も付き添いにとどまらず、とても楽しい体験でした。

友成佐智子 (会員番号16-101)



目

に見えるだけで10mにもなる砂と泥と礫の重なる地層に実際にふれました。感触とか何百万年の重みを大自然の中で感じられたのが大きな収穫でした。

徳江 紀 (会員番号16-076)

貝

の化石はあまり見つからなかったけど、植物の化石はたくさん見つかって良かったです。

吉田 美和 (会員番号16-206)

増

水した川べりの足場の悪い所でしたが、博物館の方のご配慮が行き届いており、安全に楽しく観察できました。カニの穴などの生痕化石を知り、子ども共々興味深く、探すのに夢中でした。

吉田 真弓 (会員番号16-204)

地

層やカキ・ホタテの化石の観察、木の葉の断面の化石を拾ったこと、特に、カニの生痕化石を教えてもらったのが良かったです。地層の見方も少しわかりました。地学は少しふれたことがあります。こういった機会を逃さず学習したいと思います。

塚越やよい (会員番号16-141)

ど

ここに行けばどの様な露頭が観察できるかを教えて頂けることは、露頭間の関連を考える上でまたとない機会であり、大変有意義でした。

阿久津堯一 (会員番号16-127)

イベント紹介



夕日に浮かぶトビ (撮影:小倉寛太郎)

特別展「アフリカの風」

会期: 2005年3月19日(土)～5月8日(日)

場所: 自然史博物館企画展示室

群馬県立自然史博物館では、小倉寛太郎氏からアフリカに生息するほ乳類・鳥類の標本を数多く寄贈していただきました。いずれも、小倉氏自身が現地でもハンティングしたのち、剥製に製作されたものです。今回の特別展では、その後ご遺族から寄贈された資料とアフリカに関する館収蔵品を合わせて紹介します。また、動物写真家としても知られる小倉氏の作品も多数展示します。

友の会特別展展示解説会

日時: 2005年3月26日(土)

午後1時30分～午後3時30分

講師: 館学芸グループ 指導主事 高橋克之

定員: 25名(先着順、2月26日から電話受付)

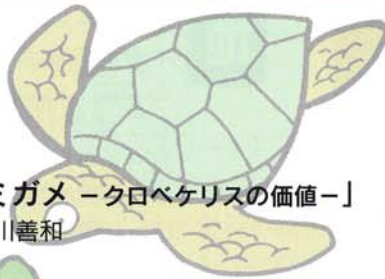
8月までの主なイベント

5 May

- ・友の会総会
- ・友の会講演会

「富岡層群のウミガメ - クロベケリスの価値 -」

講師: 館長 長谷川善和



7 July

- ・自然観察会
- ・第24回企画展展示解説会



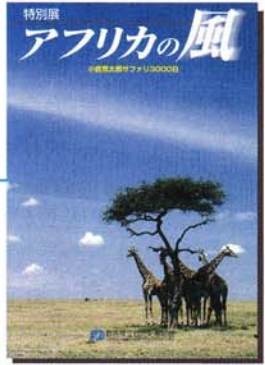
出版物の紹介

New

特別展図録 「アフリカの風」

販売開始 2005年3月19日

一般 500円 会員 450円



会員のみなさんの声をお寄せください

1 自然だより

それぞれの地域での初音・初見・気づいた自然の営みなどを日時・場所・天候・コメントなどを添えてご連絡ください。

2 会員の声

会の運営やご意見、紹介したい話、詩や短歌・散文など何でも結構です。長さも自由です。

3 その他

紹介したい写真(撮影場所・日時・コメントを記入)

★受付期間はありません。いつでも結構です。

『友の会通信』の資料として活用させていただきたいと思います。多くのみなさんからの投稿をお待ちしています。

『友の会』の更新手続きと新規入会手続きを

入会による特典

- ① 博物館の入館無料
- ② 博物館からの情報配布
- ③ 友の会行事等への参加
- ④ ミュージアム ショップの割引

年会費

- ① 一般会員 — 3,000円
- ② 高・大会員 — 2,000円
- ③ 小・中会員 — 1,000円
- ④ 家族会員 — 5,000円
- ⑤ 賛助会員 — 10,000円

★現会員の方は引き続き入会をお願いします。さらに、お知り合いの方々に新規入会をお薦めいただければ幸いです。

会員名簿

順不同 敬称略
(平成16年8月17日以後入会者)

家族会員 三田 孝幸 新井 久幸 高橋 雅樹 児玉太郎彦
松井 譲
個人会員 齊藤 美佳 相澤 賢一 田中 研一 山本哲太郎
中村 典子

博物館利用案内

■開館時間 午前9時30分～午後5時

(ただし入館は午後4時30分まで)

■休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は火曜日)・年末年始

■観覧料 一般500円 高校・大学生300円

※中学生以下・障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料
企画展開催中は別料金

編集後記

友の会通信第12号ができました。各イベントの感想文がたくさん寄せられ、今後の友の会活動への大きなエネルギーとなりました。お寄せいただいた感想文を限られた紙面にどう取り上げられるか、うれしい悩みでした。友の会への期待と関心が大きいことを物語っているようで、ルンルン気分の中、編集を終了したことを報告します。『友の会通信編集委員』角田寛子